

事業成果報告書

※後日、フォーマットをメールで送信いたしますので、次のアドレスにメール添付でお送りください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
subversive records (代表者名: 浜崎史菜、中西香南子、井上絵美子)	
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
抵抗と生存の戦略:ブラック・フェミニズムのアートアクティヴィズム	
3. 助成額	
400,000 円	
4. 実施期間	
2021 年 7 月 ~ 2022 年 7 月	
5. 実施状況	
2021 年 7 月 3 日 第 1 回企画会議 本プロジェクトの進行プランを確認し、プロジェクトで紹介するアート及び連絡をするアーティストやギャラリー、研究者を検討した。	
2021 年 7 月 ~ ブラックフェミニズムのアート・アクティヴィズムやプロジェクトの中心であるコンバヒーリバーコレクティブについて調査・研究を開始した。	
2021 年 9 月 25 日 第 2 回企画会議 各自の進行状況を確認しあった。	
2021 年 12 月 ~ 調査をもとに、プロジェクトで紹介をしたいアーティストやギャラリーにメールでコンタクトを取り始めた。オンライン上の展覧会の形式という点について権利上の理由からなかなか作品の掲載許可がいただけないケースや返信をいただけないケースが多くみられた。	
2021 年 12 月 19 日 第 3 回企画会議 それぞれの研究及びアーティスト/ギャラリー等への問い合わせの進行状況を報告し合った。	
2022 年 2 月 ~ それぞれの研究とアーティスト/ギャラリー等への問い合わせの継続を行なった。	
2022 年 3 月 ~ ウェブサイト制作開始。トークにご登壇いただく専門家を選定、コラムの執筆開始。プロジェクトで取り上げる予定であった作品を紹介するための調整を続ける中で、権利元から提示されたオンライン掲載料の金額が予算内では捻出不可能であり、オンライン上の展覧会の形式は断念せざるを得ない状況と判断した。	
2022 年 3 月 28 日 「事業変更願」提出。展覧会として紹介する作品はテキストの中で紹介し、オンラインで実際に紹介する作品は映像作品のみとした。	
2022 年 4 月 2 日 第 4 回企画会議 それぞれの進捗状況を確認し、4 月以降の進行スケジュールの見直しを行なった。配信する映像作品『アイ・アム・サムバディ / I AM SOMEBODY』を決定し、ブラックフェミニスト映画を専門とする研究者(アヤナ・ドォージェ氏)とフェミニストアートのギャラリー代表者(A.I.R.ギャラリー、ロク	

サナ・ファビウス氏)にレクチャーを依頼することに決定。

2022年4月～

『アイ・アム・サムバディ / I AM SOMEBODY』の日本語字幕制作作業及び配信準備の開始。

2022年6月17日, 24日

アヤナ・ドォーリエ氏及びロクサナ・ファビウス氏に Zoom にてオンラインレクチャーをしていただき、映像を録画した。その録画データの翻訳及び編集作業を開始。

2022年6月24日～

オンラインで本プロジェクトの成果を発表するウェブサイトを開示、作品解説とともにマデリン・アンダーソン監督『アイ・アム・サムバディ / I AM SOMEBODY』(1970)及びアヤナ・ドォーリエ氏の『ママン・ブリジット / Maman Brigitte』(2021)を期間限定(6月24日～6月30日まで)配信した。

2022年6月30日～

アヤナ・ドォーリエ氏によるブラックフェミニストフィルムの歴史についてのレクチャー動画を日本語字幕付きで公開した。

2022年7月～

コラム「表象の政治と生存: Combahee River Collective とブラック・フェミニズム」と「抹消に伴うパロディ: ハワルデナ・ピンデル「フリー, ホワイト & 21」」を公開した。今後、L.A.リベリオン、シェリル・デュニエ、エマ・アモスなどのコラムなどを掲載予定。

6. 事業成果と自己評価

1. 事業成果

本プロジェクトは、1960年代から1980年代のブラックフェミニズムの思想と関連するアートアクティヴィズムの実践を調査し、日本に紹介することを目的とした。ブラックフェミニズムは歴史に多くの貢献を残したにも関わらず、未だ白人が築き上げてきた言説に依拠しており、ブラックフェミニズムの思想はいまだ周縁化されていると言える。法律家キンバリー・クレンショウによって掲げられたインターセクショナルリティの概念が広く知られるようになった現状があるが、特異な戦略を用いて活動をしていたブラック・フェミニストアーティストたちの紹介は、日本において未だ十分だとは言えない。そこで、本プロジェクトは1977年に異性愛規範を基盤とするような白人中心主義的であったフェミニズムを批判したステイメントを発表した黒人レズビアンフェミニストの集団であるコンバヒーリバーコレクティブの思想を中心に据えた。さらにコンバヒーリバーコレクティブに影響を受けた、あるいは戦略を共にし同時代にアクティヴィスト的な芸術活動を行なったアーティストたちを調査・研究し、日本で体系的な紹介をすることを目的に掲げた。プロジェクトは幅広い聴衆に向けて実施するためにオンラインプロジェクトとして執行し、映画上映を行う〈フィルム〉、ブラックフェミニズムとアートの専門家2名による〈トーク〉、メンバーがブラックフェミニストアートを紹介する〈コラム〉の三部構成とし、順次ウェブサイト(<https://subversive-records.com/top>)に掲載した。

各項目の URL

〈フィルム〉

<https://subversive-records.com/films>

〈トーク〉

<https://subversive-records.com/talks>

〈コラム〉

<https://subversive-records.com/columns>

「抵抗と生存の戦略:ブラック・フェミニズムのアートアクティヴィズム」

映画選定: 浜崎史菜

ウェブ制作: 井上絵美子、中西香南子

ウェブデザイン: 中西香南子

日本語字幕制作進行: 中西香南子

トーク調整: 井上絵美子

会計: 井上絵美子

本プロジェクトの成果は以下の4点に要約できる。

1 ブラックフェミニズムの先駆けとしての『アイ・アム・サムバディ / I AM SOMEBODY』日本語字幕つき初配信

第一に初めて黒人女性労働者に焦点を当てたドキュメンタリー映画として知られる『アイ・アム・サムバディ / I AM SOMEBODY』の日本語字幕付きを初配信したことで、コンバヒーリバーコレクティヴの交差性の視座を提示することができたことがあげられる。『アイ・アム・サムバディ』はコンバヒーリバーコレクティヴが結成される1977年より以前の作品であるが、黒人女性と労働問題を扱ったという点ではブラックフェミニズムの思想を体現する極めて先駆的な例であり、本プロジェクトではコンバヒーリバーコレクティヴの思想の原点となるような作品として位置付け、オンライン配信を行った。『アイ・アム・サムバディ』は、抑圧されてきた黒人女性が人間として対等に扱われることを求める強い政治的メッセージを持ちながらも、様々な映像のフッテージを詩的・実験的に編集し、ビートのある音楽やシュプレヒコールとともに映像が織りなされており、ブラックフェミニズムのアクティヴィズムの多義性を表している。オンライン上の感想などを見ると、政治的主張のアクチュアリティを感じるという感想と、映像の独特なリズムが作品として高く評価できるといった感想がみられるように、ブラックフェミニズムの豊さが視聴者に享受されたように窺われる。動画視聴分析(別紙①参照)にみられるように、『アイ・アム・サムバディ』は7日間で8カ国において合計611回の再生が行われており、想定以上の視聴者を得ることができた。

2 『アイ・アム・サムバディ』の配信についての反響

『アイ・アム・サムバディ』の告知に合わせて、ウェブ媒体で本プロジェクトについての紹介が、CINRA.NET 誌 (<https://www.cinra.net/happening/2022-06-21/2294#happening2294>) と Tokyo Art Beat 誌 (https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/blackfeminism_news_20220627) の両媒体にて行われた。また多数の個人のSNSの感想が寄せられている。例えば、運動としての側面に着目した「今日までの本当に貴重な映像。キング牧師の妻コレッタ・キングの演説の場面も。ストライキの中心にいた看護師が、ストライキの成果はと問われ、人間として認められたことと真っ直

ぐに答える姿がとても尊い。」(視聴者 1)という感想をいただいたり、同時代の音楽との繋がりを示す感想、「サマー・オブ・ソウル』と同じ 1969 年にサウス・カロライナで起きた市民・労働運動の記録。行進の足音が生々しい。ここでも歌われるフリーダム・ソング。本誌最新号の中田亮さんの連載ともつながります。権力が最も恐れるのは市民の団結だということもよくわかる。日本初公開に感謝します。」(視聴者 2)などもいただいたりした。さらに「公民権」の歴史的意味を解説していただく『I Am Somebody』(1970)も観ましたが、30 分と短いのでぜひ。公民権というと、キング牧師、R パークスが有名だけど、大学医科大学で働く彼女たちが掲げる公民権は同一労働同一賃金。公民権の意味を拡大させたという意味で重要な運動なのだと思う。」(視聴者 3)という感想もいただいた。

その他、SNS 媒体であるツイッター (Twitter) で寄せられた感想を下記に再掲させていただきました。

・「おそらくあらゆる女性労働者のなかでも最も差別的な扱いを受ける存在、それが黒人女性」と述べるコレッタ・キングさん (マーティン・ルーサー・キング Jr 妻) の演説が印象的だった。」(視聴者 4)

・「今年の 263 本目は『アイ・アム・サムバディ』を観た。息の荒さや心の嘆きまでをも伝えんとするほどに、人々の顔をつぶさに捉えるのは最も誠実な撮影の姿勢から来るものだ。苦悩や怒りを契機としてはいても、これだけでらいなく堂々と前進する誰かの姿を映し出す映画の力に勝るものはない。」(視聴者 5)

・「昨日『I AM SOMEBODY』(MADELINE ANDERSON)を観た。どうやって社会を動かすのか。消費しないという方法もあるんだなと知った。シュプレヒコール聞かたび、ECD を思い出す。」(視聴者 6)

・「黒人女性監督、マデリン・アンダーソン『I AM SOMEBODY』鑑賞。チャールストンで起きた病院の黒人労働者によるストライキの始まりから終わりまでを描いた作品。今、この映画が重要なのは差別や搾取は結局、それを仕向けてる奴らにとっても不利益でしかなく平等が理不尽なく経済を回す一端という事実。」(視聴者 7)

・「ついこの前読み終えた「ブラック・ライブズ・マター回想録」や、勉強中の「ベル・フックスのフェミニズム理論」にも深くつながる内容。3分ほどの映像作品「ママン・ブリジット」もとても印象的で、もっと大きな画面で見たかった。」(視聴者 8)

・「見たのはこれ。マデリン・アンダーソン監督による I AM SOMEBODY。最後に出てきた黒人女性が「(運動の) 一番の成果は一人の人間だと認められたこと」という言葉が印象的だった。だからこのタイトルになるんだね。不買運動やスローガンの帽子など、運動のあり方も勉強になった」(視聴者 9)

③ コンバヒーリバーコレクティブの思想と芸術の関係についての考察

プロジェクトの核となったコンバヒーリバーコレクティブの思想について詳細に論じ、それらをアートと紐づけて紹介することができた。これまで、コンバヒーリバーコレクティブがいかに関わりを持っているのか、あるいはアートに影響を及ぼし、互いに共鳴してきたのかについては今まで体系的にまとめて紹介されることはなかった。しかしブラックフェミニストの思想は、表象の政治と切り離して語ることはできない。そのため、本プロジェクトでは、オードリー・ロードやベル・フック

ス、パトリシア・ヒル・コリンズらブラックフェミニストの思想を紹介しながら、それがコンバヒーリバーコレクティブの思想といかに重なりあっているのか、そして彼女たちが訴える黒人女性の経験がいかに表象の政治と深く関わりを持つものなのかをコラムで綴ることで紹介した。さらに、黒人女性にとっての表象の政治を戦略的に用いる例として、ハワルデナ・ピンデルのビデオ作品「フリー、ホワイト & 21」(1980)をコラムで紹介し、いかにパロディが攪乱的作用を持つ政治的アート実践なのかを紹介した。

④ ブラックフェミニズムに関するレクチャーの日本語字幕付きでの配信

現在コンバヒーリバーコレクティブの思想の精神を受け継ぎ活動をしている研究者及びギャラリー代表者にレクチャーをしていただいたことで、コンバヒーリバーコレクティブの思想の影響の強さとその実践的力を多くの方に知っていただく機会を作ることができたことが成果として挙げられる。研究者でありアーティストでもあるアヤナ・ドォーリエ氏のブラックフェミニストフィルムを巡るトークでは、黒人女性映像作家たちの不可視化された労働と彼女たちの作品における実験的な芸術表現が抵抗の兆しであったという説明がなされた。ブラックフェミニストフィルムの歴史が体系的に紹介されることは稀なため、ドォーリエ氏のトークは空白化された映画の「歴史」を問う大変意義深いものであった。また、ロクサナ・ファビウス氏のトークでは、白人の女性アーティストが主流であった1970年代を踏まえ、コンバヒーリバーコレクティブと同時代の1980年に黒人女性として声をあげたハワデナ・ピンデルの重要性について指摘するなど、黒人女性のアーティストが主張してきた周縁化され他者化されることへの異議申し立てを改めて確認することができた。(ロクサナ・ファビウス氏のレクチャーは現在字幕翻訳中であり7月30日に掲載予定。)いずれの専門家のトークはブラックフェミニズムの意義を提示する、貴重なものとして配信できた。

2. 自己評価

アンケート分析(別紙②参照)によれば、アンケートに回答していただいた全ての方から満足であるという結果が得られた。とりわけ『アイ・アム・サムバディ』というこれまで国内で上映されることがなかった作品を日本語字幕付きで配信できたこと、またそれに付随するアヤナ・ドォーリエ氏のレクチャーが興味深いという回答をいただけた点について自己評価を高く持ちたいと思う。またコンバヒーリバーコレクティブやハワデナ・ピンデルのコラムなど包括的にブラックフェミニズムのアーティストについて学ぶように展開できたことも高く評価したい。ゆえに、ブラックフェミニズムのアートアクティビズムを紹介するという本プロジェクトの当初の目標は達成できたように思われる。

一方で、本プロジェクトの反省点として、プロジェクト進行管理をうまく実行できなかった点が挙げられる。コロナ禍において様々な団体/個人とやりとりをするなかで返信を待たなくてはいけない時間が多くあったという点もあるが、それ以上に、団体として連携をはかりながら作業を進めることがうまくできなかったことから大幅に作業が遅れ、6月末までにプロジェクトを完了しなくてはいけないところ、7月まで踏み込んでしまったことは一重に団体としての未熟さによるものである。貴団体からいただいた信頼を裏切るような形になってしまったことについては心よりお詫び申し上げます。コロナ禍という状況も反映して進行が遅れたこともありますが、進行管理不備が最大の原因でありますこと、お詫び申し上げます。さらなる反省点として、『アイ・アム・サムバディ / I AM SOMEBODY』の視聴率や注目度と比べ、トークやコラムへの関心度を十分に高めることができなかった点が挙げられる。事前に第三者へ協力を呼びかけるなど、効果的な広報の仕方に関して、さらに学んでいく必要があることを学んだ。

7. 提出成果物

1. 制作・公開したウェブサイトを PDF ファイル化したもの
 2. 動画視聴分析、実施したアンケート結果の報告
 3. 研究内容をまとめた冊子(zine)
 4. 本プロジェクトについてのメディアの記事を PDF ファイル化したもの
- 以上 4 点を提出いたします。